

1 人目

【受験回数】1回

【生まれた年】1985年

【性別】男

【略歴】

私立理工学部卒

同大学大学院修士卒

民間企業3年少々勤務

(生物系とは無縁の経歴です)

【併願校】なし

【得点】

物理 68 化学 57 英語 57 生命科学 106 一次試験合計 288 一次試験順位 6位

面接 12.5 小論文 35 合計点数 335.5 総合順位 5位

【勉強方法】

●全般

今まで生物とは無縁の分野を専門にしていたため、生命科学にほとんどの時間を費やしました。全教科に共通して言えることですが、過去問が何よりの対策になるかと思いません。

●物理

全般：

新物理入門(駿台文庫)

力学：

物理学スーパーラーニングシリーズ 力学(シュプリンガー・フェアラーク東京)

大学教養課程時に使用していた教科書。慣性モーメントの部分だけやりました。

電磁気学：

大学教養課程時の大学編集テキスト

●化学

量子化学：

量子化学 基礎からのアプローチ(化学同人)

比較的薄く、2,3日で読むことができる本なのでお勧めです。ここについている演習問題で阪大の問題は対応できる気がします。

熱力学：

基礎化学熱力学(化学同人)

アトキンス等分厚い物理化学の本だとやる気が起きないので薄い本にて学習しました。が、古い本らしく内容はわかったようなわからないようなといった感じ。何とか試験に対応できるレベルにまで持っていくことができました。

有機化学：

ボルハルト ショアー 現代有機化学(化学同人)

大学、大学院と有機化学を専攻していたためほとんど勉強時間を費やしませんでした。確認程度にばらばらと読み返した程度。

●英語

単語：

医学部編入への英語演習

内容は大きくて難しくないのではほとんど手を付けていなかった問題集です。しかし、試験の一週間前に巻末に単語集がついていることが分かり、ひたすらこれを覚えていました。この単語集についてはよくできていると思います。

長文：

Nature Communications

無料で読める **Biochemistry** 分野の論文をひたすら読んでいました。

生物のバックグラウンドがないため大変苦労しましたが、都度単語を調べ、訳がわかたらその単語の意味することを調べるという勉強法を進めていました。あまり効率の良い勉強法ではなかったと思いますが、生命系の英文を自力で読むための感覚のようなものが多少身についたと思います。

●生命科学

生物のバックグラウンドが全くなく。大学受験時も物理、化学選択だったため最も苦労した科目です。全勉強時間の9割くらい費やしたと思います。

・ **Essential** 細胞生物学(南江堂)

生物の知識が全くない人間が読んでも十分わかりやすかったです。高校範囲の生物をやらずにいきなりこの本を読み始めましたが十分対応できるかと思います。(ただ有機化学の専門知識があったというのものもあるかもしれません。)

・ **スタンダード** 生化学(化学同人)

過去問を見たところ **Essential** だけでは生化学分野が対応できなかったので利用しました。むしろ **Essential** を勉強せずともこの本だけでもある程度試験は解けるようになるか

と思います。代謝の全体像がつかみやすい良書だと思います。

・好きになる免疫学(講談社)

試験 1 か月前にぱらぱらと一読した本。本番の試験では免疫についての問題があったのもっと読み込んでおけばよかったと後悔しました。

・シンプル生理学(南江堂)

無理やり読んでいたがはっきり言って何を言っているのか全く分からず序盤で挫折してしまいました。

・ギャノン生理学(丸善)

この本を読んでシンプル生理学で書いてあったことがようやく理解できました。運動と感覚分野しか読んでいません。

●小論文・面接

小論文：

社会人入試の小論文(実務教育出版)

小論文対策として購入しましたがほとんど読んでいません。

分かりやすく筋道を立てて書くことができればよいのではないかと思います。

面接：

将来、研究に従事してもらいたいという大学側の思いをひしひしと感じました。だからと言って、研究をやりたいということを無理にアピールする必要もないかと思います。

【なぜ阪大か】

受験科目が英語、生命科学だけの大学であれば生物系学科の人を上回ることができないと考え、物理・化学も受験科目となっている阪大を選択しました。

【採点への印象】

生命科学は思った以上の点数でした。あまりに的外れなことを書いたわけでなければそこそこ点はもらえるのではないのでしょうか。化学の計算問題は数値があっていなければ点数がもらえないような印象です。

とにかく点数を取れば合格できるという非常にシンプルな基準だったと思います。

【学士入学全般について思うこと】

阪大は受験科目が多いので生物系の背景がない人も十分に勝負になると思います。その分様々な背景を持つ人が集まってとても面白い環境で学ぶことができます。

【入学後思うこと】

再度大学生になり、勉強できることをうれしく思います。

【受験生へのメッセージ】

来年 9 月にお会いできるのを楽しみにしています。

2 人目

【受験回数】1 回目

【生まれた年】1989 年

【性別】男

【略歴】東京大学工学部卒 同修士課程中退

【併願校】東京医科歯科大学：不合格

【得点】物理 79 化学 42 英語 60 生命科学 103 一次試験合計 284(7 位)

小論文 35 面接 50 二次試験 85 計 369(1 位)

【勉強方法】

●全般

生命科学・有機化学・面接・小論文の順に重点を置きました。

●物理

研究室の輪読で熱力学の勉強の復習をしました。

●化学

KALS の有機化学を受講しました。

●英語

TOEFLiBT の対策を半年前まで一年半行っていました。スコアは 97 でした。

●生命科学

大学の講義や研究で生物物理を学んでいたのですが、チャート式を見て高校生物からやり直しました。生物 1,2 の教科書、生物 1 合格 39 講→らくらくマスター、標準問題精講→細胞生物学、分子生物学(放送大学)、生命科学(東京大学)の順に学びました。高校の内容をよく考えて解いた代わりに時間が足りず、大学の範囲は詳しく学べませんでした。

●小論文・面接

身近な人にアドバイスを貰い、志望理由を明確にしました。過去の頒布会の参考図書を読んで考えを固めました。

【なぜ阪大か】

研究と臨床を両立できると考えたから。

【採点への印象】

筆記については妥当だと思います。

小論文・面接では非常に評価されたようで、驚きました。

試験前は不安だったのですが、自分のことをよく知っている人と相談して、これしかないというところまで考えられたのが良かったと思います。

【学士入学全般について思うこと】

学力も必要ですが、回り道してでも医学の道に進むに至った過程が大事だと思います。編

入試験では一般入試とは違う何かを求められているはずだからです。

【入学後思うこと】

授業は量・質ともに充実し、人格・能力の素晴らしい先生方、学生たちとともに、医学を学べることに感謝しています。物理の経験をどのように活かすかを考えていたのは無駄ではなかったと思える方々に巡りあうことができました。研究施設も豊富で、リサーチャーマインドを持った医者を輩出するという大学の気概を感じます。

【受験生へのメッセージ】

入学後の勉強のほうが試験勉強より何倍も大変です。学力はもちろん、精神面、肉体面も欠かせません。医師を目指して積み上げて身になったものは、裏切らないと思います

3 人目

【受験回数】 1回

【生まれた年】 1986年

【性別】 男

【略歴】

米国公立大学理学部卒

私立大学院医学研究科卒

【併願校】 鹿児島大、弘前大、滋賀医大 合格

【得点】

一次試験成績：物理学 23 化学 48 英語 73 生命科学 127

二次試験成績：小論文 30 面接 50

【勉強方法】

●全般

私は受験の前年の秋に KALS の生命科学を受講しましたが、大学院が忙しく、週末に2時間ほど授業を受ける以外には全く勉強できませんでした。本格的に受験勉強を始めたのは4月からでした。勉強には主に KALS のテキストと各大学の過去問を使いました。私は阪大受験のために特別な対策をしていたわけではありませんが、編入試験全般においてどのように準備したのかを記します。

●物理・化学

物理と化学は大学で勉強したことがあるため、「名問の森」シリーズなど、高校生の参考書を解いて思い出すようにしました。それから、過去数年分の KALS 模試や阪大の過去問を解いて、似たような問題も解けるようにと、理解できるまで何度も復習しました。

●英語

英語の対策は特にしませんでした。

●生命科学

学部や大学院で生物学を勉強してきたことから、新しい知識を学ぶ必要はありませんでした。その代わりに KALS の要項集を使って生命科学の範囲を一通りカバーして、試験のために内容を整理しました。要項集の各セクションの後ろにある練習問題は、それぞれの分野のポイントを押さえるのに有用で、答えを覚えるつもりで何度も見直しました。要項集の内容を一通り読んでからは、KALS のテキストやワークブックの問題を解きました。そ

れから、KALS の模試を解いて、弱い分野を要項集や教科書で復習しました。教科書は市販されている適当なものの必要な箇所を立ち読みするくらいで、教科書を読み込んで勉強することはしなかったです。

●小論文・面接

小論文と面接の対策は、筆記試験の結果が出てから行いました。小論文においては、医学部の小論文のテーマになりそうなトピックをリストアップすることから始めました。それぞれのテーマについてインターネットや図書館の本で軽く調べて、ポイントを簡単にまとめました。実際の試験では、内容が論理的であるか、構成（序論、本論、結論）がしっかりしているかなど、基本的な部分を意識して書くだけで精一杯でしたので対策が有効であったかは正直疑問です。面接で質問されることは、どの大学でも大体同じで限られています。重点的に問われることは志望動機と将来像であるため、どのように自分の経歴をそこに論理的に結び付けるか、が重要になると思います。

【なぜ阪大か】

私は受験1年目で合格することが第一の目標であったため、筆記試験の難易度の高い阪大はやめて、他の大学を受験することも考えていました。しかし、阪大医学部の知名度や研究レベルの高さが魅力的であることは否めず、チャレンジだけでもしないと後悔すると思い、受験しました。

【採点への印象】

英語は厳しいと感じましたが、他は妥当だと思いました。

【学士入学全般について思うこと】

多様なバックグラウンドを持つ人が、医学の分野に入り活躍できることは良いと思います。

【入学後思うこと】

二年次の後期は講義と実習が多く、試験も次々とあるために、最初の数ヶ月はとても忙しく感じられます。しかし、人体について知らなかったことを学ぶことは楽しく、医学を学んでいるという実感が得られるので、あまり苦にはなりません。教育熱心な先生や研究環境にも恵まれており、自身のモチベーション次第でいくらかでも学生生活を充実させることができます。

【受験生へのメッセージ】

受験者のバックグラウンドは多様で、大学ごとの試験範囲・傾向も様々なため、学士編入

の受験に関しては正しい対策というものが無いと思います。なので、どんなに受験勉強を頑張っても、果たして自分の準備の仕方で良いのだろうかと不安になることもあると思います。そんな時こそ、なぜ医師になりたいのか、医師になって何をしたいのかを明確にし、モチベーションを維持することが大切です。頑張ってください。

4 人目

【受験回数】1回

【生まれた年】1987年

【性別】男

【略歴】関西の某国立大学工学部（化学系）→大学院（工学修士）→民間企業

【併願校】神戸大学一次合格、二次は阪大合格のため棄権

【得点】一次 272（物理・化学で計 85、英語 62、生命科学 125）、二次 62.5、最終成績 334.5

【勉強方法】

●全般

働きながらの受験でしたので、平日はあまり時間を割けませんでした（全くできない日も多く、できてせいぜい2時間程度）。従って、土日でまとめて勉強していました（6~12時間程度）。本格的に土日を潰して勉強に着手できたのは、受験の半年前くらいからでした。

●物理

対策に満足に時間をかけられず、当日の試験で解答用紙への記入ミスも重なって、散々たる結果でした。最初の試験科目ということもあり落ちたかと思いましたが、ある意味開き直ってその後の科目に臨めたのが功を奏しました。対策は他の方を参考にして下さい。

<使用教材>

◎物理のエッセンス力学・電磁気学 → 高校の範囲を復習するために重宝しました。

○名門の森 電磁気・熱・電子 → 電磁気の必要な問題だけ取り組みました。

◎アトキンス物理化学 → 大学時代の教科書。どちらかと言うと化学の試験対策で使いました。

○ムーア物理化学 → 大学時代の教科書。思い出す程度に必要な箇所を読み返しました。この教科書は物理化学を専門としない方には読みづらいと思いますので、アトキンスがおすすめです。

●化学

有機化学は大学からの専門科目ですので、過去問を解いたくらいです。特に有機化学は得意なので、主に物理化学の復習をしました。

<使用教材>

～物理化学～

◎アトキンス物理化学 → 大学時代から慣れ親しんでいることもあり、この教科書をメインで復習しました。じっくり読めば初学者にも分かりやすいです。特に熱力学、量子化学ではアトキンスの内容を理解できれば十分だと思います。

○ムーア物理化学 → 大学時代の教科書。思い出す程度に必要な箇所を読み返しました。この教科書は物理化学を専門としない方には読みづらいと思います。

～無機化学～

◎シュライバー無機化学上・下 → 初めて読む方には読みづらく、量が多いと思いますので、他の本が良いかもしれません。

～有機化学～

時間もなかったので過去問を解いたくらいです。参考書としてはブルース有機化学がおすすめです。この本は優しく書かれており、しっかり勉強すれば編入試験の有機化学では9割くらい取れるはずです。より詳細に学びたい方はウォーレン有機化学をおすすめします。

●英語

通勤時間を利用してひたすら単語を勉強して、土日で主に長文演習をしていました。但し、時間があまりなかったので単語をひたすら覚えるくらいしか満足にできませんでした。

<使用教材>

～単語～

◎システム英単語 → 高校生の時からの愛用書。これと医学系の基礎用語を覚えれば怖いものなしです。

◎KALSの英単語帳 → 医学系の基礎用語を覚えるために使用しました。1000語くらいを単語カードにして、通勤中にひたすら覚えました。

～長文～

○過去問 → 3~4年分くらいはざっと目を通しました。

●生命科学

大学受験時は物化選択でしたので、まず①で高校生物の概要を大まか勉強しました。その後、②を勉強しました。③は大学時代から使っており、②と合わせて復習しました。

<使用教材>

①チャート式新生物 I・II、数研出版

②KALS 生命化学 完成・実戦、要項集

③理系総合のための生命科学、羊土社、第2版

●小論文・面接

小論文試験は初めてでしたので、1次試験終了後に以下の方を通読して対策を立てました。理系の方はご自身の研究内容を簡便に説明できるように訓練しておいた方がいいです。

<使用教材>

◎小論文これだけ！医療・看護編、樋口裕一著、東洋経済新報社

◎小論文の完全ネタ本、医歯薬/看護・医療系編、神崎史彦著、文英堂

【なぜ阪大か】

研究、臨床両面において日本の医学界をリードする大学であり、学習環境として最適であると考えたからです。そもそも何故医学部を受けたのか、なぜ大阪大学なのか、については他にも個人的な深い理由はありますが、それはまた阪大でお会いした時に聞いて下さい。

【採点への印象】

化学はもう少しとれたかなと思ったのですが、それ以外は手ごたえ通りの結果でした。

【学士入学全般について思うこと】

医学以外の様々なバックグラウンドを持った人や明確な目的意識を持った人に門戸が開かれており、良い制度だと思います。企業や研究所で働かれている方で医学に興味がある方にもおすすめです。

【入学後思うこと】

この文章を書いている2回生の後期は想像以上に勉強が大変ですが、日々新たな学びがあり、大変有意義な時間を過ごせていると思います。先生方は丁寧に質問に答えて下さり、親身に相談にものって下さるので、やる気次第で沢山学べます。

【受験生へのメッセージ】

働きながら、あるいは研究室で研究を続けながら受験をされる方はなかなか平日に勉強できず、苦労も多いかと思います。その中で焦ったり、不安になることはもちろんあるかと思いますが、隙間時間を大切に、最後まで諦めずに頑張ってください。今回の試験では、英語の試験で英作文が出たり、生命科学に英語の問題が出るなど、昨年とは傾向が変わりました。特に英語に関しては、過去問に縛られず、柔軟に対応できるようにしておいた方がいいです。来年、歓迎会でお会いできるのを楽しみにしています！

5 人目

【受験回数】

1 回目

【生まれた年】

1990 年

【性別】

男

【略歴】

京都大学理学部卒業⇒同大学院

【併願校】

名古屋大学

【得点】

物理 39 化学 66 英語 56 生命科学 112 一次試験合計 273 (10位)

小論文 35 面接 33.4 計 341.1 (4位)

【勉強方法】

●全般

完全に独学だったし、受験を決意したのが 4 月だったのでかなり苦労しました。でも、短期間でも集中して勉強すれば十分に合格できると思います。

●物理

参考書：難問題の系統とその解き方、キャンパスゼミ 力学・電磁気学

物理は高校物理範囲の内容から出ると決めつけて、大学受験した時の勘を取り戻すために問題演習を中心にしました。その結果、今年の試験で大分面喰ってしまったのですが、少しは大学の教養課程の問題集にも手を出していたので助かりました。自分の感想としては大学受験レベルの高校物理の勉強を行うよりも、大学の教養課程の物理学をしっかりと履修した方が対応できる問題の幅は大きいのではないかと思います。

●化学

参考書：ウォーレン有機化学

化学系の研究室にいたために、日々が勉強という感じで試験のための勉強はほとんどしていません。ウォーレン有機化学は何度も読み直しているのでも、軽く流し読みする程度でした。もし、時間があるのなら有機化学の勉強はウォーレン有機を読むことをお勧めします。少しずつ読み進めても数ヶ月くらいはかかるでしょうが、読み切れれば日本において出題される有機化学に関するほぼ全ての試験問題を解くことが

できます。問題演習をするのならば、ブルース有機化学の章末問題が豊富です。

●英語

特に参考書は使わず、研究室生活の中で論文をしっかり読み込むことで英語の勉強としていました。生物系の論文も読む機会が多かったのが幸いしました。論文を読むことができる環境にあるなら、論文を読み込む力をつけることで十分ではないかと思います。余裕があるのならば英単語を覚えて語彙力をつけるとより確実だと思いますが、印象としては論文でよく使われる単語を覚えておけばある程度はカバーできると思います。

●生命科学

参考書：Essential 細胞生物学、リップンコット生化学、Clinical 生体機能学

大学院院試などで勉強する機会があったために、Essential 細胞生物学を軽く読みなおした後に生化学や生理学の範囲をしっかりと勉強しました。特に神経に関してはここ数年の間は出題されていたので錐体路などを重点的に覚えました。また、大阪大学は免疫学研究の権威ともいえるほど世界をリードしているので免疫学についても軽く目を通して勉強していました。ここで、生化学と生理学をしっかり勉強しておくとならば編入学した後に勉強がだいぶ楽になるので損はないと思います。高校の頃は生物の勉強をしておらず、今回も高校生物の参考書は使っていないので、大学生物の範囲で案外カバーできるのかもしれませんが。

●小論文・面接

二次試験が始まる一週間前から始めました。過去の先輩方が紹介されていた小論文用に読んでおくべき本を買い集めて、目を通したくらいです。後は過去の面接で聞かれたことの例に対して全ての回答を準備したくらいでしょうか。模範解答の様なものも作りましたが丸暗記はしていません。このあたりは就職活動の面接などと同じでしょうか。なぜ医学部なのか、医師に対する思いなどを重点的に聞かれると思うので、動機をしっかりと固めていないと詰まるのではないかと思います。

【なぜ阪大か】

国立の医学部であり、実家から通える距離で、施設などが充実していることが一番大きいでしょうか。研究をまだまだやりたかった自分としては、研究活動が盛んな大学に行きたいと思っていたことが一番の理由だと思います。

【採点への印象】

こんなものではないか、という印象でした。英語に関しては、英作文以外はほぼできた印象があったので、英作文は採点がシビアだったのかもしれませんが。

【学士入学全般について思うこと】

素晴らしい制度なので、今後も続いていったらいいと思います。

【入学後思うこと】

他の学部よりも時間的にも勉強量的にもかなりハードだと思います。時間割は二回生の間は全てのコマが埋まっていて、週二回の解剖実習もあるために最初の頃はかなり疲れました。しかし、その分医学を学んでいるという充実感があり、満足した生活を送れています。一段落すると時間は作ることは難しくないなので、部活や研究などにチャレンジする時間は十分にあると思います。

【受験生へのメッセージ】

試験勉強は大変だと思いますが、地道な日々の勉強の積み重ねが一番重要だと思うので諦めずに頑張ってください。

6 人目

【受験回数】 1 回目

【生まれた年】 1989 年

【性別】 男性

【略歴】 国立大学文系大学院中退。大学受験時は理系でしたが、その後文転しました。

【得点】1 次試験 物理学 57 化学 68 英語 69 生命科学 116 一次試験合計 310(1 位)

2 次試験 小論文 25 面接 20.9 計 355.9 (2 位)

【勉強方法】

●全般

過去問をもとに計画を立てて勉強しました。

●物理

過去問をメインに対策を立てました。

●化学

化学についても、過去問ベースで勉強しました。教養学部時代の化学の参考書なども使いました。

●英語

過去問を中心に勉強しました。

●生命科学

カルスを受講して勉強しました。

●面接・小論文

一次試験に合格してから市販の参考書や頒布会などを参考に対策を立てました。

本番では、一般的な内容（なぜ医師を目指すのか、なぜ編入なのか、など）のほか、卒論の内容などについても聞かれました。

【なぜ阪大か】

試験の透明性が高く、対策も立てやすかったため。

【採点への印象】

全体的に妥当だと思います。

【学士入学全般について思うこと】

これからも続いてほしいと思います。

【受験生へのメッセージ】

編入試験に限らず試験ではメンタルが重要だと思います。気持ちを楽にして頑張ってください。

7 人目

【受験回数】 2 回

【生まれた年】 1978 年

【性別】 男

【略歴】 京都大学工学部 → バイオベンチャー研究員数年

→ 在籍しながら京都大学経営管理大学院 (MBA)

→ IT ベンチャー創業 (バイオベンチャー部長兼務)

→ バイオベンチャー退社 → 大阪大学医学部

【併願校】 なし

【得点】 物理 59/100 化学 86/100 英語 50/100 生命科学 101/150 合計 296 (一次 4 位)

二次試験 38.4 (小論 30/50 面接 8.4/50) 総合 334.4 (7 位)

【勉強方法】

●全般

2012 年の冬、まともな受験勉強と呼べるのは十数年ぶりとなるが、とりあえず分子生物学講義中継シリーズを読み始める。しかし仕事の忙しさやトラブルなどですぐに中断。ただ生物未履修者にとって生命科学がかなりヘビーな科目であることがわかる。中途半端な勉強で合格できるものではないことを悟り、仕事を整理し (バイオは退職、IT は業務縮小)、本格的な受験体制を整えたのが 2013 年 4 月頭。手始めに某模試を受けてみると偏差値が生命科学 38 (当然)、英語 45 (医療系英単語が全くわからずまともに読めない)、物理・化学共に 65 (高校範囲は良好。大学範囲は全滅) だった。かつて京医合格圏くらいの成績を叩き出したこともある昔のことを考えると悲惨としか言えない状況。しかしこれが闘争心に火をつけ、一次試験まで約 3 か月 (諸事情でロスった期間除くと丸々 2 か月半程)、毎日 10~12 時間勉強し続けた。そして 1 次試験をなんとか突破し、二次試験を終え結果発表。不合格。まあ通ったものの一次試験の結果がよくなかったんだらうと成績開示をしてみると、物理 59/100、化学 50/100、英語 97/150、生命科学 71/100、合計 277 (一次 7 位) 二次試験 33.4 (この年は内訳の記載がなかったが、おそらく小論 25 面接 8.4) 総合 310.4 (11 位)。悶絶の一言。二次試験の点数が低すぎる。いろんなことが頭をよぎった。面接官とっ捕まえて問いただしに行こうか、阪大ごとぶっ壊しにいこうか... 二次が低い理由はかなり色々考えていくつかに絞られたが、それじゃ阪医編入はかなり不利だなという結論になって、一般入試で京医か阪医を受けようかまで悩み始めた。とりあえず少し休もうと勉強道具を放り出してリフレッシュすることにしたら、仕事やプライベートで何年も山あり谷ありが続き大忙しだった状況が色々整理したことで解放されていて、ついつい遊びまくってしまった。気づけばもう年末。有馬記念で数十万負けて、時間もお金も大幅にロスった数か

月を振り返り、ようやく我に返った。よし、年明けから全力でいこう。年齢と状況を考慮するとやはり一般入試よりはショートカットできる学士編入が魅力的だし、二次が低いのを筆記でねじ伏せて阪医編入リベンジしよう。こうして2014年年初から勉強を再開。仕事等でちょこちょこ中断したり適宜休息をとりながら、約半年間（実質丸々5か月強程）、1日10時間勉強を続けた。そして一次試験、某模試で1位奪取もしていてそれなりの自信をもって臨んだが、やってしまう結果となる。いつもの悪い癖で、ここまではやる必要がないだろう、これは出ないだろうと勝手に決めつけて自分で穴を作ってしまうところがあり、まさにそこをつかれる試験内容。物理の波動方程式、英語の英作文、生命科学の一部ではほぼ対策やってないところがろくに書けず手応えとしては昨年より悪く最悪の出来。一次落ちもありえると冷や汗。が、なんとか一次を突破。そして二次対策として医師や研究者の友人に協力してもらい、色々とシミュレーションをして試験に臨んだ。結果、最終合格。面接に関しては対策をしようがしまいが、どうあがこうが結局激烈に低い点数だったが、2014年9月、無事に阪医編入を果たした。

●物理

◎キャンパスゼミ（力学、電磁気、熱力学と各演習）6冊

◎難問題の系統とその解き方（例題のみ）

○中川の物理講義1・2（かなり古い本ですが、良い本です。大学入試レベル）

△医歯系の物理学（購入したものの時間的に手が回らず）

●化学

物理化学

◎ライフサイエンスのための物理化学

◎ライフサイエンスの物理化学演習

○基礎物理化学演習

○化学・生命科学系のための物理化学（辞書的に利用）

○化学I・IIの新研究（平衡のとことか使えます）

△バーロー生命科学のための物理化学

有機化学

◎演習 有機化学 サイエンス社

◎有機化学演習 基本から大学院入試まで

○マクマリー有機化学

○ソロモン有機化学

量子化学（結構やったのに大損くらった科目です 笑）

◎演習による基本の理解

○単位が取れる 量子化学ノート

○単位が取れる 量子力学ノート

●英語（英作系ゼロです 笑）

◎医学部編入への英語演習

◎過去問と模試の繰り返し

○KALS の完成シリーズ（ヤフオクで購入。阪大と他いくつかだけかいつまんで）

○速読英単語 上級

○医歯薬系の英単語

○Solution 英文法・語法・構文（文法とかの復習です。昔の知識を取り戻すため）

○英文読解の透視図

●生命科学

◎KALS 要綱集・完成・実戦（ヤフオクで購入）

◎分子細胞生物学（朝倉書店）

◎新生理学Qシリーズ（薄いのに内容が広範で良し。大学でも役立ってます）

◎休み時間の免疫学（繰り返しやりましたが、もう一段深いところは↓の演習書で勉強）

◎生化学・分子生物学演習第2版

○医学部編入への生命科学演習

○分子生物学講義中継5冊

○エッセンシャル細胞生物学

○理解しやすい生物（大学受験時は物化なんで高校レベルの勉強）

△医学を学ぶための生物学（購入時期が遅く参考程度）

△集中講義 生理学（Qシリーズの方が良し）

●小論文・面接

ヤフオクで購入した KALS の小論文のテキストと時事ネタ本など3冊ほど。読むには読みましたが、あまり役に立たなかった気がします。「医の未来」という本は一応ためになると思います。面接は問答集を作ったり、友人に協力してもらって受け応えのシミュレーションをしたりしました。面接で聞かれたことはだいたいこんな感じです。

- ・志望理由
- ・経歴（今までどんなことをやってきたか）
- ・臨床か研究か
- ・チームプレーで何かトラブったことはあるか
- ・年齢に関する質問（体力面や歳の離れた同級生とうまくやっていけるか等）

【なぜ阪大か】

- ・臨床、研究ともレベルが高く名門。ネームバリューもある。
- ・フルセットの入試（英語、生命科学だけでなく物理、化学がある）
- ・生活基盤が大阪にあり、通学もしやすい。（阪大自体は辺鄙な場所にあり）

この年齢から医師を志した理由は自身の志向や人生経験など含めていくつかの要素が絡んでいて、重い話もあるのでこの場では書けません（笑）

【採点への印象】

筆記についてはまずまず妥当だと思います。過去の情報なども含めた感触としては、物理と化学は厳しめ、英語と生命科学は甘めという印象だったんですが、問題の傾向が変わったこともあり、今年度は違ったように思います（化学は細かな記述が要求されてると思います。生命科学は知ってること書けるだけ書いた方が良いかも。英作文は中学レベルの英作では点数低いと思います 笑）。

小論文は採点のポイントがよくわかりませんが、面接に関しては確実に「決まってる」感があります。基準に照らし合わせて付けて、あとは実際に見てよっぽどおかしいところがなければ、それで確定みたいな。面接の内容云々じゃないところで面接点が決まってる気がしてなりません。実直まじめな研究者志向の青年が良いと思います（笑）あれこれいらんことを考える歳を食った私は阪医編入においては評価が低いようです。

【学士入学全般について思うこと】

良い制度だと思います。むしろ学卒からの医学部、社会人経験後の医学部というのが本流になってもおかしくないと思っています。多様なバックグラウンドを持つ人間が医学の世界に入ってくることは良いことだと思いますので、今後も継続して行って欲しい制度ではあります。ただ医師の供給と人口減の関係の中で、学士入学制度も変わっていくだろうし、その先行きには興味があるところです。

【入学後思うこと】

想像よりは楽で、思ったよりキツイです（笑）。解剖はビビる程のものではなかったです（立ちっぱなしや中腰作業になるんで腰は痛めます 笑）、医学生といえども学生ですから、忙しくしてた社会人の時と比べれば時間の余裕はあります。ただテストを直前ダッシュの瞬発力だけで乗り切ろうとすると科目によっては半徹夜くらい覚悟しないといけません。まあ編入試験を突破できる能力があれば、ふざけ過ぎなければ普通に乗り越えていけるとは思います。一般入学の若い学生達とも徐々に打ち解けて仲良くなり、本格的な学生生活を楽しんでいます。入学して良かったと思います。

【受験生へのメッセージ】

阪医の学士編入は、学力さえあれば受かる、臨床/研究関係なく、年齢も関係なく、というのはすでに過去の話です。現に今年度は筆記上位 5 人中 3 人もが何らかの理由で最終合格に至っていませんでした。明確に「研究」ができる人間、「研究」をする可能性が見込める人間を学士編入で取ろうとしています。面接点はその調節に使われていると個人的には見てます。だからといって面接でただ単に研究志望と言い張っても無駄だとは思いますが。経歴や年齢、その他いくつかのファクター（もちろん面接での説明・応対も含め）から研究医としての可能性を査定しています。じゃ臨床志望は厳しいのかと言われると、年齢が比較的若くて、編入の理由をちゃんと論理的に説明できればそれ程面接点で不利になることはないのではないかと思います。しかしこればかりはわかりません。ただとにかく、比較的若くて純粋に基礎研究したい人間を阪大が取りたがっているというのは事実です。ですので、志望理由、経歴、年齢などに不安がある方は、筆記で 10 番ではなく 5 番以内に入ることを目標にがんばってください。個人的には阪医編入は、いや阪医編入だけは学士編入の中でもストロングスタイルというか、一般入試並のガチンコ学力勝負でいってほしいな～というのがあるんですが、それじゃ学士編入の意味がないと言われそうですね。阪医編入の入試制度のここ数年の変遷を見てると、二次試験の配点が高くなってきてますからね。

あと過去の一般入試の経験（京医落ちの経験あり）と今回の阪医の編入試験を比べて言うことは、当然ながら合格のために求められているものは違います。学力の高い完成度が求められる一般入試に比べて、編入試験では学力に加え経歴、年齢、そして運、と様々なファクターが大きく関わります。学力だけで言うと、ある程度の広さながらかなりの深さが求められる一般入試に対して、深さはそこそこだけど逆にかかなりの広さが求められるのが編入試験（安定して高得点を取りたいければ）、といった感触です。当たりはずれを極力少なくするためにはカバーする範囲を広げないといけない、でも広げすぎると個々の単元の理解が疎かになるというところがありますね。ですが、一般入試以上に知識の蓄積がものをいうテスト（地頭の差を努力でオーバーテイクできる確率は一般入試よりあると思います）でもありますので、時間をかけて地道に積み上げたものは決して無駄になりません。あと入学後も役立ちますしね。一般入試向きか編入試験向きかは人それぞれあると思いますが、阪医編入志望の皆さん、全力でぶつかれば案外道は開けると思います。がんばってください。